

# MIYAKO

地域と歩むコミュニケーション紙

Vol.9 2014 春号

## 地域協議会だより



### ◆ 主な内容 ◆

### みんなの力で地域を創る

～平成25年度地域創造基金事業の紹介～

ふるさと再発見

### 三王岩の伝説

川井堰堤から望む

# みんなの力で 地域を創る

〜平成25年度地域創造基金事業の紹介〜

地域創造基金は地域住民の連帯強化や地域振興のための事業に活用されています。25年度は33事業が行われました。

## 第8回インドア・スノーバトル宮古大会

インドア・スノーバトル宮古大会実行委員会



小学生の部

インドア・スノーバトル宮古大会実行委員会では、12月21日・22日に第8回となる大会をグリーンピア三陸みやこにて開催しました。今大会も市内外のチームに参加頂き、親子参加が多く見られ、子供から大人まで世代を超えて楽しんで頂けたと感じております。

特にも今大会は岩手県への派遣の方々に多数参加頂きました。初めての参加者が多い中、皆様に楽しんで頂き地域を超えた交流もあり、小学生を中心に参加されたチームの皆様には元気いっぱいプレイして頂きました。第9回の大会開催に向け、更なる住民連携・世代間交流の醸成を図れるよう普及に努め活動して参ります。

## 第48回「音楽の夕べ」

宮古市で交響曲を演奏する会

8月4日、陸中ビル3階の大ホールに於いて開催しました。出演者は、宮古市在住の方々を中心として、県内外からたくさんの方々の参加を頂き、成し得た音楽会です。

第一部は、「キラキラ星変奏曲」にはじまり、他2曲を演奏しました。第二部では、4曲の独奏があり、第三部では、テノールの歌あり、東京カワンバグスによるオペレッタ「こうもり」序曲を演奏しました。第四部では、全体合奏で「ドナウ河の漣」、ヴァイオリン協奏曲「四季」より「夏」を演奏しました。第五部の「オーケストラを歌おう」で、「大地讃頌」他4曲を演奏しました。男性パートで、遠くから応援にかけて下さいました方々、本当にありがとうございました。



「音楽の夕べ」参加者

## 復興 冬のイルミネーション

宮古商工会議所青年部



市役所前歩道橋

震災後の街なかに、少しでも光を、そして心に明るさを持ってもらおうと始めたイルミネーション点灯事業。昨年までは、市役所前歩道橋を彩り、往来する人々の目を楽ませて参りましたが、今年度は少しアレンジを加えて、歩道橋の入り口から光のアーチを設置しました。アーチの中は光の世界。何度も何度も走り回る子供の姿が見受けられました。外から眺めるだけでなく、アーチの中を歩くことで、まるで光に包まれているような気分を味わうことができます。イルミネーションの点灯は、11月22日から2月28日までの間行われました。

## 昭和通りのおかみさんもてなしたい

ウェルカムフラワーが迎える街並み創出事業



宮古短期大学の学生

ウェルカムフラワー作りは、4月と6月に宮古駅と鎌ヶ崎小学校、津軽石小学校で計5回実施しました。初めてのハンギング作りでしたが、みんな真剣に取り組み、見事な出来映えでした。

駅前広場では、一般のボランティアの方々ほかに、宮古短期大学のサークルの皆さんの参加もあり、朝9時から夕方4時過ぎまでの植え込み、取り付け、後片付けまで、お手伝いいただきました。小学生も3年生と6年生が作成し、自分たちもびっくりする程の出来映えで、街中にウェルカムを伝えることができました。

宮古の文化財を考えるシリーズ「鯉牛と春陽の世界をたずねて」

思惟の会

9月8日、158名が参加し、宮古駅前を起点に新里地区の茂市から和井内までの文化財探訪となりました。玄翁館では、元岩手県文化財保護指導員の佐々木健先生の講演を聞き、春陽ホールでは、中村悦子先生のピアノ伴奏で、駆け付けた刈屋婦人会の皆様と一緒に、春陽の歌を中心に大合唱となりました。最後は、和井内宝鏡院住職の慶徳雄仁師の法話「生きろ」があり、座禅で締めました。参加者からは、「大変有意義だった」と好評で、これはとりもなおさず、皆さんの郷土宮古のことをもっと知りたいという気持ちと主催者の思いが同じだった証でしょう。



慶徳雄仁師の法話

田代の紅白歌合戦

田代おもしろプロジェクト実行委員会

田代の紅白歌合戦は、12月22日に、亀岳小学校校体育館で開催しました。地域の世代を越えた交流で、より強固なコミュニケーションと郷土愛創りを目的に始めた企画ですが、地区の人はもちろんのこと、地区外からも大勢の方に観に来ていただき、4時間という長い時間の中、最後まで席を立つこともなく、大変盛り上がった開催となりました。また、この企画はプロセスに重点を置いており、その中で携わった多くの人が共に感動と達成感を共有できたことは大きな成果であり、地域にとつての新たな価値観の提案となりました。



田代の紅白歌合戦

第3回みやこ街コン

みやこ街コン実行委員会

20歳以上の男女が集い、宮古市内の美味しいお店や温かな人との出会いを通じて、飲食店に賑わいの創出と少子化・晩婚化に歯止めをかけ、わがまち「みやこ」の活性化に貢献することを目的として「第3回みやこ街コン」を11月3日に開催しました。男女合わせて230名の申込みがあり、約2割が宮古市外からでした。当日は同性ペアで申込をした参加者が、1時から19時30分の3時間半のあいだ、街コン参加飲食店13店舗を自由に巡りながら、美味しい料理とお酒、そしてさまざまな出会いを楽しみ大いに盛り上がりま



参加者受付

宮古地域活性化のための新規事業発表大会及び人材育成事業

三陸ドリプラ宮古実行委員会

昨年の11月3日に開催した地域創造基金を活用した事業、「三陸ドリムプラン・プレゼンテーション」宮古。この大会には地元宮古を良くしたい、地域のために貢献したいと強く思っている、3名のプレゼンターの方がエントリーし、約100人の観客の前で自分自身の意見や思い、叶えたい夢をストーリー性の有る事業計画として発表しました。中でも田老の善助屋食堂の女将である赤沼秋子さんの「夢のリアスランドTARO」はこれからの田老復興にかける決意と郷土愛に溢れたプレゼンでした。今後も実行委員会では、宮古に住む方々の熱い思いや、未来への明るいビジョンを発表できる大会を続けていきます。



プレゼンテーション

LIGHT UP NIPPON おらほの復興花火大会

WARADUKA

「おらほの夏祭り」として平成22年まで14回を数えた田老地区の花火大会が、震災後LIGHT UP NIPPON(東京の有志の方々が、被災した東北の沿岸部に追悼・復興の花火を打ち上げたいの思いから全国から寄付を募っている団体)の協力とその趣旨に賛同いただいた皆様により、「LIGHT UP NIPPON おらほの復興花火大会」として3年目の開催となりました。今年度は、松本哲也ミニライブ、花火打ち上げの際に「追悼・復興メッセージ」の読み上げを行い、無事に花火を打ち上げることができました。皆様方のご協力にWARADUKA会員一同感謝申し上げます、今後も田老地区の地域づくりのために活動を続けていきます。



松本哲也ミニライブ

末前・青倉地区交流事業

末前地区自治会

古くから交流を続けている末前、青倉地区では、9月15日に「末前・青倉地区大運動会」を開催しました。この運動会は、毎年1回秋に行っている地区住民総参加の伝統ある行事で、子供からお年寄りまで約70人が参加し、縄跳び競争やスティックボールなど楽しい一日を過ごしました。今後もこの行事を通じて世代を超えた交流の場、子供たちの体験学習の場とし、地域の伝統を継承しながら、地区民の体力の向上と交流、さらなる地域の発展を目指し実施していきたいと考えています。



競技種目「田老名物」あわび捕り

第67回田老地区体育大会

田老地区体育大会実行委員会

この大会は、「戦後からの復興」を願って昭和21年に第1回大会が開催され、今年も「大震災からの復興」の決意を込めて第67回大会を田老一中校庭で10月13日に開催しました。地区民、八幡平市、黒石市、県立盛岡四高吹奏楽部など幼児からお年寄りまで幅広い年代の参加者及びボランティアが約700人集い、「田老名物」、「綱引き」、「男女混合対抗リレー」などを通じて世代間、地域間の交流を図りました。これからも「地域の一体化とみんなが元気を出すきっかけ」の一助となればと思いい、活動に取り組んでいきたいと考えています。



2人3脚パン食い競争

けげだす村工房まつり

青倉地区自治会

青倉地区は18世帯の小さな集落ですが、地場産品や加工品の販売、郷土料理の提供や体験交流など地域住民の連帯強化と地域振興を図るため、平成9年から「けげだす村工房まつり」を開催しており、17回目となる今年度は10月27日に開催しました。

今回は約500人の方にお越しいただき、恒例の「けげだす鍋」も振る舞い、来場者の方々から大好評をいただきました。地元はもちろん、遠方から来られた方もあり、味噌、豆腐、だんごや野菜など青倉地区の手作りの味を買い求めていました。

地区住民だけでは人手が足りないことから、親戚や末前地区の協力を得て、地域一体となった秋のまつりでした。



イワナの塩焼き

田老地区復興まちづくり協議会活動推進事業

宮古市田老地区復興まちづくり協議会

私たちの事業は、「地域創造基金」を利用してイベントを行う、といった活動ではなく、会員以外にも、開催する会議に興味のある地域住民に参加していただきながら、市の示した計画の検討や田老地区の復興に向けて安全・安心で暮らしやすいまちづくり、産業振興、雇用等を住民自ら考え、検討結果を市長に提言などして、田老地区の復興に向けた活動を行う会です。

一例を挙げますと、市の職員から「宮古市田老野球場」再配置の説明を受けて、避難路や駐車場の確保や防潮堤に設置されている「石版」に配慮した整備を要望するなどの活動を行いました。



仮設住宅集会所での会議

田老さんの会活動推進事業

田老さんの会

「田老さんの会」は、平成4年4月に発足し21年を迎えました。平成25年度は8月1日の「盛岡さんさ踊り」、同月のグリーンピア駐車場で行われました盆踊りや9月22日のたろちゃんハウス2周年記念イベントに参加いたしました。

特に9月のイベントの際は、宮古市地域創造基金を活用し作成した「イベント用浴衣」のお披露目をする事ができました。

平成26年度も「盛岡さんさ踊り」や「みやこ秋まつり」に参加することを目標に「創作さんさ」にも取り組んでいきたいと思っています。「田老さんの会」では、会員募集中です！」



たろちゃんハウス感謝祭

ふる里田老地区の復興さけ幟普及活動事業

天空を泳ぐさけ幟づくりの会

当会は、ふる里に希望の灯をともしようと地元魚にちなんだ「さけ幟」を復旧復興のシンボルとして選び、鮭の生命力とふる里への絆の強さを新しい地域づくりに活かそうと考えました。

これまで、さけ幟の掲揚普及、鮭の勉強会&新巻鮭づくり体験会、鮭の燻製工場見学ツアーを実施しました。体験会や見学ツアーには、小学2年生から80代まで多数の参加があり、地域間・世代間交流もなされ、子供たちを通してふるさとの魚「鮭」への想いを深めるきっかけとなりました。今後は、この1年の事業をしっかりと検証し、「さけのまち」づくりに取り組み続けていきたいです。



さけ幟

新里地区教育振興運動推進事業

新里地区教育振興運動推進委員会

新里地区では、次代を担う子ども達の教育水準の向上を目指し、「子ども・親・学校・地域・行政」の5者が一体となり、教育振興運動を展開しています。

今年度は、「学力向上」、「健全育成」、「健康安全」、「家庭や地域の教育力の向上」を目標として、4実践区で地域の特色を生かした家庭学習や読書活動、自然体験活動、地域交流活動、あいさつ運動など、様々な実践活動を地域ぐるみで取り組んでいます。

子どもの減少や地域の高齢化の進行などの課題はありますが、今後も地域ぐるみの運動を展開して継続してまいります。



川遊び交流会

新里地区生涯スポーツ推進事業

新里地区生涯スポーツ推進協議会

新里地区の方々が、生涯にわたるスポーツ・レクリエーションに親しむことができるよう、年間を通して様々なスポーツ行事を開催しました。

春から秋までの「ソフトボールリーグ」、お盆の「ふるさと交流野球大会」、秋には「スポーツ・レクリエーション祭」、「女性軽スポーツ大会」、冬には「ビーチボールバレー大会」、各地区でも、運動会などの体育行事を開催しました。

また、今年度はだれでも気軽にできる「グラウンドゴルフ」の普及を目指し講習会を開催しました。これらの事業には、多くの参加者があり、地域間の交流と親睦が図られました。



グラウンドゴルフ講習会

サマーフェスタにいとさと2013

サマーフェスタにいとさと実行委員会

サマーフェスタにいとさと実行委員会は、「魅力ある地域づくり」を目指し新里地区の夏まつりを開催しています。平成25年度は8月3日に新里トレーニングセンター特設会場において郷土芸能・交流カラオケ大会・ミニコンサート・大抽選会などを実施しました。

新里地域は高齢化や若年層の流出など、地域の活気が薄れている現状ですが、私たち実行委員会が活動を継続することにより、「魅力ある地域づくり」の一助になれるよう、今後も活動に取り組みしていきたいと考えています。



ジャンボ輪投げ大会

和井内ふるさと収穫祭

和井内区

11月3日、開始時間30分繰り上げ9時30分、和井内青雲太鼓の勇壮なリズムと軽快なばちさばきで「第12回和井内ふるさと収穫祭」が開幕しました。

昨年より来場者は少なかったものの天気には恵まれ、恒例の手作りの餅、団子類は完売し、ホタテ焼の海の幸、野菜りんご類の山の幸、そして食堂の十割そばは大好評でした。

舞台上では、歌や踊り更には大抽選会と楽しんでいただきましたが、各方面でイベントが重複して開催される中、創意工夫のもと魅力あるイベントとして定着できるよう、更に精進したいと思えます。



和井内郷土料理研究会コーナー

閉伊川遊イング事業

閉伊川遊イング事業実行委員会

私たちは、閉伊川を活用し宮古市をPRするため、また宮古市の震災からの復興をアピールすべく、8月31日、9月1日の2日間事業を開催しました。川下り大会前夜祭花火大会は、あいにくの雨天でしたが、打ち上げには支障なく予定どおり開催することができました。閉伊川川下り大会は、前夜の雨により閉伊川が増水し、安全を考慮し競技を中止しましたが、協賛各社からのご協力により、お楽しみ抽選会を開催することができました。今回の大会では、登録者合計で316人の選手のエントリーがあり完全に震災前の大会規模を回復し事業を終了することができました。



お楽しみ抽選会

新里やまぶどうまつり

宮古市やまぶどう生産組合

第1回「新里やまぶどうまつり」は、9月29日にリバーパークにいと多目的広場で開催しました。この事業は、ヤマブドウの果実販売、ヤマブドウ栽培の紹介を行うことで、ヤマブドウの消費及び生産拡大を図り、地域の振興に寄与することを目的に、鮎まつりと同時開催しました。

まつりでは、生産者が丹精込めて生産したヤマブドウや地元野菜が販売台所にせましと並べられました。また、ヤマブドウジュースの作り方などのレシピのチラシを作成し、来場したお客様に配布し、PRを行いました。



新里やまぶどうまつり

踊りの里OGUNNー振興事業

小国地域づくり委員会

踊りの里振興事業のメインイベント「踊りフェスタOGUNNー2013」は12月8日に開催しました。10団体、出演者122名のほか観客スタッフで250名近くが参加し、伝統芸能に新しい創作芸能も加え、近隣市町村の芸能団体とも交流を図るイベントとして定着してきました。この事業で誕生したよさこいチーム風林火山は新曲「いつか会える」発表、衣装を整え、奥州前沢のよさこいフェスタや、宮古のイベントにも参加しました。

このほか小国の宝探検隊では長者森金山跡を調査し、案内板を整備しました。

また、小国の基本計画づくりではワークショップを重ね、トンネル開通後の小国地域を描く計画をまとめて全戸に配布しました。



「風林火山」による演舞

早池峰山ろく地産地消と交流推進事業

NPO法人かわい元気社

10月27日、第3回早池峰マラソンを開催しました。峠越えコース20km、里コース5km・10km、ジュニアコース3kmを設定して参加募集したところ、マラソンブームもあり166名のエントリーをいただき、年々参加者は増えています。10時にスタートし、峠越え20kmコースでは54名が静峰苑前ゴールを目指し、標高1064mを駆け抜け完走しました。里コース・ジュニアコースでは部落の皆さんが日の丸の旗を振るなど声援を送っていました。メイン会場の静峰苑では地域のお母さん方による土産土法の郷土料理に舌鼓を打ちました。今回は遠く三重県、東京などからの参加者もあり和やかな交流会の中で閉会しました。



早池峰マラソン 一斉スタート

川井郷土芸能祭

川井郷土芸能団体連絡協議会

「美しく、そして力強く、時を越え受け継がれる郷土の舞」をテーマとして、第42回川井郷土芸能祭が、11月3日に川井小学校体育館で開催しました。

出演団体は、川井地域から12団体、宮古地域から「田代念仏剣舞」の出演をいただいたなかで、川井中学校が総合学習の一環として郷土芸能の伝承活動に昨年度より取り組みその成果として「箱石こうきりこ」と「末角笠踊り」を披露していただきました。

各出演団体ともすばらしい芸能を発表し、お互いにその芸能を称賛し合いながら鑑賞していました。そして会場からも盛大な拍手やご声援をいただき、今年も盛会のうちに終了することができました。



川井中学校生徒の「箱石こうきりこ」

### 第4回区界高原まつり

門馬地域自治振興協議会

晴天に恵まれた9月29日「道の駅」区界高原で開催し、多数の来客者で賑わいました。高原野菜の大根、キャベツ、白菜は飛ぶように売れて、早々に完売となりました。地域には市の送迎バスが走り、高齢者の来場も多くみられました。まつりの目的は地域を元気にすることと、安らぎの地域をつくることにあります。門馬小学校児童の元気な、しらかば太鼓を聞くことができました。お年寄りの笑顔もありました。その場面でも目的を達していると言えます。まつりの模様はニュースや、新聞に掲載いただきました。



門馬小学校しらかば太鼓

### 閉伊の郷まつり

閉伊の郷まつり実行委員会

10月26日「道の駅」やまびこ館で開催した「やまびこ館収穫祭」は、台風の影響で郷土芸能公演を中止しましたが、餅つき及び餅の振る舞いについては実施しました。翌27日の「煮しめサミット」は、宮古地域より11団体が振る舞いに参加いただき、また代表者による「煮しめコンテスト」も開催しました。

台風通過後で晴天であったものの、テントを破損するなどの、折強い風に見舞われ、事業協力者及びお客様にご迷惑をおかけしました。事業規模を縮小せざるを得なかったものの、盛況のうちに終了することができました。



閉伊の郷まつり

### 江繫地区収穫感謝祭

江繫郷土芸能保存会

江繫地区収穫感謝祭は、11月24日に江繫小学校体育館を会場に開催しました。ふるさとの郷土芸能、ふるさとの歴史、ふるさとの食をテーマにそれぞれの成果を発表しあいながら、来訪者との交流を図ることを目的に実施しました。江繫の郷土芸能のほかゲスト出演の黒森神楽、末角神楽、大槌城山虎舞、小田代直子さんの歌謡ショーを見ながら、江繫の各地区からのお振舞いに舌鼓を打ち、地区民が一体となった取り組みとなりました。早池峰山に関わる写真コンテストや江繫小学校児童の早池峰絵画コンテストでは、地域を見直す機会ともなり、地域の宝を再認識していました。



江繫早池峰神楽 勢剣舞

### 夏屋紅葉まつり

夏屋ろばた塾

第5回夏屋紅葉まつりは10月13日、夏屋地区の山の駅・峠茶屋「楓」で開催しました。ステージイベントでは、地元夏屋鹿踊りや民謡民舞ショーをはじめ演歌歌手による歌謡ショーのほか、さんさ団体「さんさ好み」による賑やかな踊りがまつりに華を添え、入場者は紅葉のパノラマの中での歌や踊りを堪能していました。

牧場遊覧バス運行も行われ、紅葉が見頃の牧場の樹木や放牧牛を眺め、心が癒される自然景観に見惚れていました。



夏屋鹿踊り

### 川井地域大運動会

川井地域大運動会実行委員会

10月6日、平成25年度川井地域大運動会が川井小学校グラウンドにおいて、川井地域6地区からの参加により開催しました。当日の天候は時折り雲の切れ間から日差しがこぼれる生憎の空模様でありましたが、大会終了までどうにか持ちこたえてくれました。出場された選手の皆様は、日ごろの運動不足をものともせず、自己の限界に挑戦しながらも和気あいあいと競技されており、地域間の交流も図られたものと思っております。

当運動会は川井地域全体が一堂に会する機会でもあり、今後とも継続していく予定であります。



女子綱引き

# 三王岩の伝説



田老地区の観光名所である「三王岩」。岩手県の天然記念物（地質鉱物）に平成4年9月4日に指定されています。また、平成25年9月24日に認定された三陸ジオパークのジオサイトの一つとなっています。男岩・女岩ともに、宮古層群の最下部の巨礫岩からなる宮古層群の羅質層と、下閉伊層の茂師石灰質砂岩部層からなっており、男岩（高さ約50<sup>メートル</sup>）は下から5分の2は羅質層、

上から5分の3は茂師砂岩部層からなっている大石柱です。女岩（高さ約23<sup>メートル</sup>）は、脚部が羅質層、上が茂師砂岩部層からできており、太鼓岩（高さ約17<sup>メートル</sup>）は茂師砂岩部層からなる転石（元の位置から移動したものです）です。

石柱状の男岩、尖頭状の女岩そして男岩からの転石とみられる太鼓岩が造りだす景観は珍しく、また白亜紀の地質である宮古層群が、鮮明に露頭する大石柱は、地質的に貴重です。先の大津波を受けても倒れたりすることなく、変わることない雄姿を見せつけています。そんな三王岩に、昔から伝わる伝説があります。実は、三王岩がロケットだったという言い伝えです。

遠い遠い昔、数千年の昔の田老の先住民は、それは高度な文明を持っていたという。その文明は、科学的でもあり五感が発達した生物本来のもので

もあったという。その二つの能力から、彼らは人間同士が争い、地球が死滅するのではないかと予見したという。それは、核戦争だったという。

彼らは、自分たちの土地を捨てることはなかった。地球が死滅するのだから、どこにいても同じだった。ただ、数千年後の子孫のことを考えた。田老の地に人が生きていてほしいと。そして彼らが考え出したのは三王岩と、そこに通じる道の下にある八戸穴だった。

三王岩のあの高さ五十<sup>メートル</sup>の巨岩の正体、実はあれには地球脱出用のロケットが格納されていた。八戸穴は核シェルターとして掘られたものだった。先住民たちは何千年後かの子孫を思い、それによって田老の地に生きる命を残そうと考えたのだった。そして、それを隠すために自然景観につくり変えた。将来の海水面の高さに合わせてつくり変えた。いまの人々が美しいと見えるように。監視役も置いた。小さな無数の住居を用意した。その役目をアマツバメたちが担った。天の使いとして。天使たちは休むことなく三王岩の回りを飛んでいる。できるなら、ロケットが発射することがないようにという役目だということだ。

いま、太郎と花子が三王に行った。「いろんな石が固まってできているネ」「下なんかコンクリートでつくったみたいネ」。実はその底部が古代に施した修復の跡だった。過去も現代も未来も学び



取った人たちは、三王岩を発掘することをやめた。アマツバメたちが一回、二回、三回と回って飛んだとき、ロケットは岩になった。宇宙に飛び出す科学以上に、何かを教えてくれそうな自然がつくりだした二十一世紀への自信、それを乗せているようだった。（参考文献・田老生誕100周年記念誌）

震災の影響により、三王岩周辺の一部遊歩道が通行不可能、園地内のトイレも併せて利用不可能な状態となっていますが、今後は旧三王閣があった場所から、三王岩を見下ろせる場所に、展望台、トイレ、東屋などを整備予定で、それらの事業は、今年の秋頃までには完成予定とのことです。

現在は三王岩までは通行できませんが、遊歩道などが復旧した際は是非一度訪れてみてはいかがでしょうか。